

配分に関して寄せられた意見等

これまで、パブリックコメントや現地説明会、第9回太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議等で出された御意見は以下のとおり。

(1) 沿岸漁業者からの御意見

- ・経営体数が圧倒的に少ないまき網への配分が過剰であり、沿岸に再配分すべき
- ・クロマグロへの経営の依存度を考慮して沿岸に再配分すべき
- ・FAO 行動規範等に基づき、小規模の沿岸漁業者に手厚く配分すべき
- ・漁獲量の増加傾向を踏まえた漁獲枠とすべき
- ・過去における最大の漁獲実績を保証すべき
- ・直近の漁獲量が保証されればよい
- ・配分の根拠となる漁獲実績の基準年を変更すべき
- ・漁協が枠を配分すると、実績の有無に関わらず承認隻数で等分し、漁獲実績のある漁業者の枠は10分の1以下となってしまう
- ・実績で配分するのなら、その間一部地域で行われていた自主的な獲り控え措置を考慮すべき
- ・混獲回避のため休漁等の負担が生じる地域へ配慮すべき
- ・クロマグロは絶滅危惧種になっており漁獲を制限すべき
- ・資源保護の観点から産卵期は禁止にして資源回復の検証をすべき
- ・まき網により漁獲されたクロマグロは品質が低く、資源の有効利用の観点からも規制すべき

(2) 沖合漁業者等からの御意見

- ・小型魚、大型魚とも漁獲枠の削減や留保への枠の抛出をしてきた上に、枠もしっかりと遵守している（まき網漁業）
- ・大型魚の漁獲枠はまき網だけ直近の実績より削減されているのは公平ではない（まき網漁業）
- ・規制導入前から小型魚等の自主的な資源管理に取り組んできた（まき網漁業）
- ・まき網漁業も沿岸漁業のために我慢をしている（流通関係者）
- ・年間操業が可能な枠が必要（近海かつお・まぐろ漁業）
- ・日本海の夏の時期は、クロマグロしか獲るものがなく依存度が高い（まき網漁業）
- ・沖合のクロマグロは規制導入後増加していると実感しており産卵親魚の漁獲は資源に影響を与えているとは思えない（まき網漁業）
- ・割当枠を達成し混獲を避けるために漁場や漁具の変更を余儀なくされており経営にも影響（近海かつお・まぐろ漁業）